

地域伝承が地域コミュニティおよび子どもの社会認知発達に及ぼす効果 ：神楽の多面的検討から

【代表者】 高見 友理 島根大学 人間科学部 准教授

【共同研究者】 菊野 雄一郎 島根県立大学 短期大学部 講師
佐藤 鮎美 島根大学 人間科学部 講師
佐藤 桃子 島根大学 人間科学部 講師
岩瀬 峰代 島根大学 大学教育センター 准教授

【研究の目的と内容】

本プロジェクトの目的は、地域の伝承（特に神楽）が、地域コミュニティのシステムや子どもの社会認知発達に与える効果を多面的（心理学・福祉社会学・人類進化的）に検討することである。子どもが地域伝承に携わることは、地域コミュニティシステム上有益であること、また子どもの発達を促すことが期待される。しかしながら、これまで行われてきた多くの研究は語りや観察を元にケースを検討したものであり、定量的評価はなされていない。そこで、本研究では、地域の伝承（特に島根における神楽伝承）が子どもの社会認知発達に与える影響に焦点をあてて、インタビューなどの主観的評価で包括的・定性的に捉えるとともに、客観的指標により定量的に検証することを目的とする。さらに、これらの効果を心の構造（心理学）、社会の構造（福祉社会学）、両者の相互作用（人類進化学）といった視点からも検討し、考察する。

昨年度（プロジェクト1年目）は、神楽が地域コミュニティおよび子どもにもたらしている影響を包括的に捉え、研究の方向性を決定することを目的に、神楽社中および地域住民を対象とした参与観察およびインタビューを実施した。

本年度は、神楽が地域コミュニティにもたらしている影響を詳細にとらえ、神楽が子どもの認知発達にもたらす効果を実証的に検討するための実験室実験の準備を行うことを目標に定めた。その目標達成のため、具体的には、①子ども神楽の主催者・経験者および、島根にアイターンし神楽に関わる方を対象にインタビュー②神楽に精通する外部研究者からの研究助言、③神楽音楽の同期効果について、NIRS（近赤外線分光法による脳血流測定）を用いた実験的検討を計画した。

上記①のオンライン・インタビュー（半構造化面接）を実施し、②の研究会を開催の上、インタビューによって得られた結果に関する考察やディスカッションを行った。また、③のNIRSを用いた予備実験を行い、客観的指標による定量的な検証を含む3年目以降の研究の方向性を決定した。

【研究の成果（本研究によって得られた知見、成果、論文、学会発表、外部資金への応募見込み等）

前述したとおり、本年度は、①子ども神楽の主催者・経験者および、島根にアイターンし神楽に関わる方を対象としたインタビューの実施とその書き起こしデータの質的検討、②神楽に精通する外部研究者を講師とした研究会の実施、③神楽音楽の同期効果の解明を目的とする、NIRS（近赤外線分光法による脳血流測定）を用いた予備実験を行った。

①②としては、インタビューで得られた結果をプロジェクトメンバーで検討する上で、島根の神楽を対象に第一線で研究されている中村元記念館東洋思想文化研究所研究員の中野秋鹿氏を招致した。そのディスカッションを元に、神楽が子どもや高齢者の社会的認知能力に及ぼす影響について、以下の観点で研究を行う道筋が導き出された。1) 子ども神楽における異年齢集団効果：①子どもの「あこがれ像」の構築、②高齢者の「子どもにとっての手本・伝承者」としての自覚といった心理的・社会的効果、2) 音楽への同調運動効果による地域への愛着醸成効果。上記の観点は、1) は質問紙調査などをベースとした福祉社会学、発達心理学、臨床心理学、2) はNIRS・脳波などを使用した神経発達学・発達心理学、そしてすべての観点は総合的に人類進化学的な検討を進めていくことが可能である。

本年度に得られた成果は、①SAN'IN ダイバーシティ推進ネットワーク主催「研究マッチング2020 イベント」（発表題目：本プロジェクト名に同じ、2020年7月20日：オンライン開催）、②日本ユング派分析家協会(AJAJ)主催セミナー（講演題目：出雲神話の神々、2020年12月6日：オンライン開催）において研究発表を行った。

来年度は、今年度決まった方針を元に、神楽が地域コミュニティおよび子供の社会認知発達にもたらしている影響を実証的に検討し、成果をまとめていく予定である。さらに、そのデータや研究計画を元に、サントリー文化財団助成金など、地域貢献を目的とした研究を対象に助成する財団に応募する予定である。